

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	嬉野市立吉田小学校
1 前年度 評価結果の概要	・タブレットを活用した授業の取組は十分行われていたが、学力向上対策シートのマイプランへの取組の意識が足りず、成果目標を達成することはできなかった。 ・コロナ禍の中で、できる限りの地域人材の活用を進めてきたが、実践することが難しかった。新しい取組の工夫を考えていくことが必要である。 ・保・小・中一貫教育が充実したものになるように、工夫して進めていく。
2 学校教育目標	かしこく やさしく たくましい 吉田っ子の育成 ～ 地域と共に、9カ年の学びのなかで ～
3 本年度の重点目標	(1) 確かな学力の育成 (2) 豊かな心の育成 (3) たくましい心身の育成 (4) 小中一貫教育並びに地域と共にある学校づくりの推進 (5) 働き方改革の推進

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ○児童が熱中して学び合う授業づくり	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○毎日の授業で、先生や友達の話をよく聞き、自分の考えを書いたり、友達と話し合ったりすることが楽しいと回答した児童90%。	・校内研修の時に、毎回マイプランの取組み状況について促進を図る。 ・授業づくりチェックシートを活用した授業を、月5回以上実施し、指導方法の改善を図る。	C A	・中間評価の達成率は、60%である。 ・職員会議、校内研修等で、意識して取り組むように、マイプランを提示する。 ・授業中、話をよく聞き、自分の考えを書いたり発表したりすることが楽しいと回答した児童は、89%であった。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「なかよし宣言」を実践できたと回答する職員80%以上。 ○いじめの防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対応等)について組織的対応ができていて回答した職員90%以上。	・なかよし宣言シートを活用した話を様々な場面で行う。 ・なかよし宣言について、委員会からの振り返りを放送したり、呼びかけをしたりする。 ・日ごろからいじめの早期発見・対応に努め、組織的にたいおうするようにする。 ・いじめについて考えることができる教材等で、きっかけを作り、指導する。	C A	・「なかよし宣言」を周知する機会がなかったため、ほとんど実践できていない。 ・人権集会で、「なかよし宣言」を取り入れた話をし、児童に考えさせる機会としたい。 ・アンケートや教育相談週間を実施したことにより、いじめの早期発見・解決につながった。 ・日頃からアンテナを高くして、いじめの早期発見・対応に努めることができた職員は90%であった。	B A	・人権集会では、「なかよし宣言」をもとにした人権劇を行い、子ども達に友達と仲良くしようとする意識を高めることができた。 ・運営委員会から「なかよし宣言」の紹介や、振り返り週間の取組みを行った。 ・日ごろから、いじめの早期発見・対応に努め、組織的に対応することができた。 ・授業で、いじめに関する内容を取り上げ、発達段階に応じた指導を行った。	A A	・社会に出るうえで最も重視する問題だと思えます。主に、保護者の仕事だと思えますが、できる限りのサポートをお願いします。 ・いじめについて、子ども達自身が考える機会を授業の中でも設けていただければ素晴らしいです。 ・吉田の子はやさしいイメージですが、日頃から先生方が目を光らせていただいている成果だと思います。 ・どのようがいじめの事例と向き合い、考えていくべきかを、「こうすべき」という答えを与えるだけでなく、子ども達自身で考える機会をこれからも作ります。	やさしい子プロジェクト ○杉原 浦川 井崎 山口 やさしい子プロジェクト ○浦川 井崎 杉原 山口
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ◎志を高める教育活動の実践	●家庭と連携し、「早寝・早起き・朝ごはん」ができた回答した児童80%。 ◎「自分の夢や目標をもって生活している」について「よくあてはまる」と回答した児童80%以上。	・月1回「早寝・早起き・朝ごはん」チェックを行う。 ・「夢ハンカチ」や「キャリアパスポート」を実践する中で、自分の夢を具体的に考える機会を作る。	A B	・「早寝・早起き」は93.5%、「朝ごはん」は94.8%の児童が達成できていた。 ・11月に家庭と連携して「早寝・早起き・朝ごはん」についてのチェック週間を実施する予定である。 ・「自分の夢や目標をもって生活している」を「よくあてはまる」と回答した児童は68.8%で、達成できなかった。しかし、「大体あてはまる」まで入れると94.8%であった。 ・夢ハンカチは、11月に実施する予定である。各学年のキャリアパスポートの活用はできている。	A B	・「朝ごはん」は94.3%、「早寝・早起き」は84.6%と9%ほど下がっていたが、ともに80%以上を達成することができた。 ・家庭と連携して生活チェックを実施できた。平日はよくできているが、土・日は生活のリズムが崩れる児童がいるという保護者のコメントで多く見られた。 ・夢や希望をもって生活していると答えた児童は、70.5%とわずかに伸びた。「大体当てはまる」まで入れると93.6%であった。 ・夢ハンカチを全校児童で実施することができた。キャリアパスポートに、活動のめあてや振り返りを全学年記入できていた。	A A	・生活習慣は保護者の役割ですので、保護者への啓発をこれからもお願いします。 ・各家庭での意識付けが、一番重要だと思います。 ・小さくても目標をもつことはいいことです。達成感を味わわせることで、叶えられるかもしれないと夢が膨らんでいくのではないかと考えます。 ・今後も夢や希望、目標について考える機会をたくさん設けていただきたいです。	たくましい子プロジェクト ○水山 井手 千々岩 野口 たくましい子プロジェクト ○井手 水山 千々岩 野口
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限(月の超過勤務平均45時間以内)を遵守した職員85%以上。 ○定時退勤日には、早めに帰ることを意識して業務を遂行できた回答した職員85%以上。	・通常の退勤目標時刻を設定し、計画的に見通しを持って業務遂行ができるように、意識付けを図る。 ・定時退勤日を月の第1・第3水曜日に設定し、積極的な退勤を勧めていく。	B A	・業務改善の意識をもって、定時退勤を意識している職員は91.7%と高いが、45時間以内を遵守した職員は83%であった。 ・定時退勤日を月の第1・第3水曜日に設定したので、今後も積極的な退勤を呼びかけていく。	A A	・業務改善の意識をもって、超過勤務45時間以内や定時退勤日を意識した職員は100%だった。 ・定時退勤日を設定し、勧めてきたが、なかなか遂行できるまでには至らなかった。しかし、時間外勤務の平均時間は、中間評価に比べて少なくなっていたことから、早めに退勤しようする意識の変容は見られていた。	A A	・先生のゆとりは、子どもに直接響くと思います。業務が多忙な中で、目標を達成されたことは大いに評価するところです。 ・子ども達が学校生活を楽しく過ごすためにも、先生方の健康第一を目標に、今以上に取組んでほしいです。	校長 教頭 教務

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○地域連携	○郷土愛を育む「吉田学」の推進	○「吉田学」で学んだことを、地域や家庭に発信できた回答する職員85%以上。	・「吉田学」で学んだことを、通信や映像、授業参観での発表等で発信する。	A	・「吉田学」の活動の様子について、学級担任の全員が学級通信で発信することができた。	
○小・中一貫教育	○9カ年間の学びの連続を意識した中学校との一貫教育の充実	○小・中一貫教育の取組みが充実したと答えた教職員が80%以上	・小中で乗入れ授業・交流授業を各学年1回以上実施する。	B	・前半の交流授業を、4・5・6年生の音楽、5・6年生の体育で実施している状況である。 ・後半は、1・2・3年生でも実施する予定である。	A	・小中一貫教育の取組が充実していたと答えた職員は、100%であった。 ・1～3年生の実施は難しかったが、4～6年生の乗入れや交流授業は、大変充実していた。	A	・小中の先生方でカリキュラムを作成するのも大変だったと思います。充実した取組みの評価にうれしく思います。 ・学校目標のテーマを、子ども達自身が自ら育っていくように、ニュアンスを加えていただけたらと思います。	○教務 井崎 蒲地

5 総合評価・次年度への展望	●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育 ・本年度の重点目標5つの全てにおいて、A評価に達することができた。中間評価で課題があった項目について、意識した取組みを行い、最終評価で達成率を上げることができた。 ・学力向上対策シートの各職員が掲げた「マイプラン」の達成率は、中間評価では低かったが、最終評価で100%に達することができた。昨年度の最終評価が78%だったことを考えると、今年度の取組みがよかったと言える。 ・地域連携教育の実践では、昨年度の実践を参考にしながら、コロナ禍の中で何をどこまでできるかを検討し、実践につなげることができた。まだまだ地域人材の活用には人数制限等を考える難しさもあったが、授業参観やケーブルテレビを活用することで保護者や地域に発信することができた。情報発信では91%の達成率であり、成果指標を上回ることができた。次年度は、支援や参観者を増やしたり、地域に取材に行ったりするなどの学習活動も少しずつ戻ってくるであろう。 ・小中一貫教育では、4年生以上の音楽や5・6年生の体育の乗入れ授業が大変充実していた。専門的な授業を受けることができ、児童の学習への意欲に高まりが見られた。
----------------	---